

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）

(実施期間：平成 27～令和 2 年度)

実施機関：国立高等専門学校機構（総括責任者：谷口 功）

取組の概要

「女性研究者が生き生きと研究教育活動に取り組むことが出来る高専を作り上げる」決意の下、機関のスケールメリットを活用し、国立高専の女性研究者特有のニーズに応える次の取組を実施する。

1. 修士の女性を雇用し、博士号取得支援により研究者として育成する「めざせ高専研究者の道」プログラムで女性研究者比率向上を図る。
2. 55キャンパス活用同居支援プログラム等で研究環境の向上を目指す。
3. ライフイベントで研究を中断した研究者へ研究アドバイザーによるRe-Start研究支援プログラムを実施する。
4. 計画的な上位職登用を促す女性登用促進プログラムを実施する。

これらは、全国 55 キャンパスのスケールメリットを活用した高専ならではのユニークな取組である。

(1) 評価結果

| 総合評価 | 目標達成度 | 取組 | 取組の成果 | 実施体制 | 実施期間終了後の取組の継続性・発展性 |
|------|-------|----|-------|------|--------------------|
| A | a | a | a | a | a |

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

理事長のリーダーシップの下、全国規模で展開する 51 の国立高等専門学校を有する特徴を最大限に活かした特色ある「55 キャンパス活用同居支援プログラム」を創設し、その効率的な実施により女性研究者の両立支援を進め、ライフイベントを理由とする離職を抑制するとともに、抜本的な人事制度改革により国立高等専門学校初の女性校長を 2 名誕生させたことは評価できる。また、教員の女性限定・優先公募、女性准教授の昇任や女性教授の採用に係るポジティブ・アクションを実施することにより、女性教員数を大幅に増加させ、女性研究者在職比率、教授職の女性比率に係る目標を達成した。今後は、任期無し女性教員の採用割合が減少傾向にある要因を分析し改善を進めるとともに、博士号取得を目指す女子学生や女性研究者を支援する「めざせ高専研究者の道」プログラムについて長期的な視点で計画の見直しを進め、さらなる展開を図ることを期待する。

- ・ **目標達成度**：教員の女性限定・優先公募、女性教授の採用・昇任に係るポジティブ・アクションの実施により、女性教員数を大幅に増加させ、女性研究者在職比率、教授職の女性比率に係る目標を達成したことは評価できる。
- ・ **取組**：「55 キャンパス活用同居支援プログラム」、「Re-Start 研究支援プログラム」、「女性登用促進プログラム」等、全国規模で展開する 51 の国立高等専門学校を有する特徴を活かした特色

ある取組を効率的に実施したことは評価できる。博士号取得を目指す女子学生や女性研究者を支援する「めざせ高専研究者の道」プログラムは、長期的な視点で計画の見直しを進めており今後の展開を期待する。

- **取組の成果**：女性教員数が85名増加し、女性研究者在職比率、教授職の女性比率ともに目標を達成した。管理職への女性の登用が進み、国立高等専門学校初の女性校長2名、女性理事1名が誕生しており評価できる。また、ライフイベントから復帰し、「Re-Start 研究支援プログラム」の支援を受けた女性研究者の論文発表数、外部研究資金の獲得件数等の研究業績が向上しており今後の展開が期待できる。
- **実施体制**：理事長のリーダーシップの下、国立高等専門学校機構本部に「A11 KOSEN 女性研究者支援オフィス」を設置し、全国を5ブロックに分け本事業を推進する専門教員を配置するなど、全国51の国立高等専門学校全体として事業を実施する体制を構築したことは評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：補助期間終了後も、自主経費を確保し効率的な経費配分によりこれまでの取組を継続して実施しており評価できる。理系女性人材の育成推進の方向性を維持し、女子学生を対象とした裾野拡大の取組を継続して実施しており、今後の発展が期待できる。